

製品名: LAT ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13225**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	LAT
別名	LAT; Linker for activation of T-cells family member 1; 36 kDa phospho-tyrosine adapter protein; pp36; p36-38
遺伝子 ID	27040.0
SwissProt ID	O43561
免疫原	抗血清はヒト LAT 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 191-240

背景

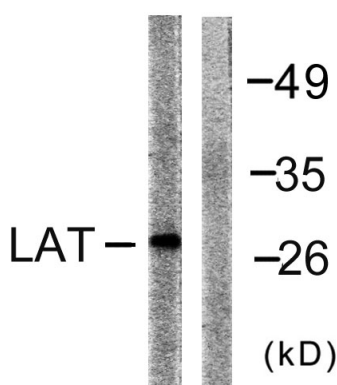
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、T細胞抗原受容体（TCR）シグナル伝達経路の活性化に続いて、ZAP-70/Syk タンパ

ク質チロシンキナーゼによってリン酸化されます。この膜貫通タンパク質は脂質ラフトに局在し、SH2 ドメイン含有タンパク質のドッキング部位として機能します。リン酸化されると、このタンパク質は複数のアダプタータンパク質と下流シグナル伝達分子を、TCR の結合部位付近に位置する多分子シグナル伝達複合体にリクルートします。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：成熟 T 細胞および分化期 T 細胞の両方において、TCR (T 細胞抗原受容体) およびプレ TCR を介したシグナル伝達に必須です。ナチュラルキラー細胞における FCGR3 (低親和性免疫グロブリンガンマ Fc 領域受容体 III) を介したシグナル伝達と、肥満細胞における FCER1 (高親和性免疫グロブリンイプシロン受容体) を介したシグナル伝達に関与します。これらの受容体とそれに関連するキナーゼの活性化は、PLCG1、GRB2、GRAP2、およびその他のシグナル伝達分子のリクルートメントを通じて、細胞内カルシウム貯蔵の動員、PKC 活性化、MAPK 活性化、または細胞骨格の再編成などの遠位細胞内イベントと結び付けられます。、その他:キラー抑制受容体 (KIR) の関与により、PLCG1 と LAT の相互作用が阻害され、おそらく LAT の脱リン酸化を誘導することにより、標的細胞による PLC の活性化がブロックされます。、PTM:ラフト標的化および効率的なリン酸化には、Cys-26 および Cys-29 のパルミトイル化が必要です。、PTM:TCR 活性化時に ZAP-70 によって、または他の免疫受容体活性化時に SYK によってチロシンがリン酸化され、複数のシグナル伝達分子のリクルートメントにつながります。 TCR 結合後に検出される最も顕著なチロシンリン酸化タンパク質の 1 つです。、細胞内局在: 脂質ラフトに存在します。、サブユニット: リン酸化されると、ホスホイノシチド 3 キナーゼの PIK3R1 サブユニット、および GRB2、GRAP、GRAP2、PLCG1、PLCG2 の SH2 ドメインと直接相互作用します。CBL、SOS、VAV、LCP2 とは間接的に相互作用します。SHB、SKAP2、CLNK とは (類似性により) 相互作用します。FCGR1A と相互作用します。、組織特異性: 胸腺、T 細胞、NK 細胞、肥満細胞で発現し、脾臓にも低レベルで発現します。T 細胞には存在しますが、B 細胞には存在しません (タンパク質レベル) 。、

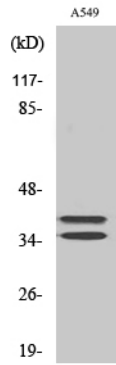
研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性、T 細胞受容体、Fc イプシロン RI、Fc ガンマ R を介した貪食作用、

画像データ



NIH/3T3 細胞ライセートの LAT 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した LAT ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析